

# 結 果 の 概 要

## 1 出生数は減少

出生数は86万5239人で、前年の91万8400人より5万3161人減少し、出生率（人口千対）は7.0で前年の7.4より低下した。合計特殊出生率は1.36で前年の1.42より低下した。（第1表）

母の年齢（5歳階級）別にみると、出生数は15～44歳の各階級及び50歳以上では前年より減少したが、14歳以下及び45～49歳では増加した。合計特殊出生率の内訳は全ての年齢階級で前年より低下した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第4表（1）、第5表（1））

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率ともに、全ての出生順位で前年より減少・低下した（第4表（2）、第5表（2））。

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は20～39歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、40～44歳の第3子以上及び45～49歳の第2子及び第3子以上等では前年より増加した。合計特殊出生率は20～34歳の各階級ではいずれの出生順位も前年より減少したが、35～39歳及び40～44歳の第3子以上等で前年より上昇した。（第4表（3）、第5表（3））

## 2 死亡数は増加

死亡数は138万1093人で、前年の136万2470人より1万8623人増加し、死亡率（人口千対）は11.2で前年の11.0より上昇した（第1表）。

死因別にみると、悪性新生物＜腫瘍＞の死亡数は37万6425人（死亡総数に占める割合は27.3%）、死亡率（人口10万対）は304.2であり、前年と同様死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患、第3位は老衰となった。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男4.6、女2.4で、男は前年と同率で、女は前年の2.5より低下した（第1表）。

## 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△51万5854人で、前年の△44万4070人より7万1784人減少し、自然増減率（人口千対）は△4.2で前年の△3.6より低下し、数・率ともに13年連続で減少・低下した（第1表、第2表－1、第2表－2）。

## 4 死産数は減少

死産数は1万9454胎で、前年の1万9614胎より160胎減少したが、死産率（出産（出生＋死産）千対）は22.0で、前年の20.9より上昇した（第1表）。

## 5 婚姻件数は増加

婚姻件数は59万9007組で、前年の58万6481組より1万2526組増加し、婚姻率（人口千対）は4.8で前年の4.7より上昇した（第1表）。

## 6 離婚件数は増加

離婚件数は20万8496組で、前年の20万8333組より163組増加し、離婚率（人口千対）は1.69で前年の1.68より上昇した（第1表）。